

横浜市予選会開催要項（マスターズ、シニア）

2502 横浜野球連盟

本開催要項は、市民マスターズ・スポーツマスターズ・シニアの横浜市予選会に適用。

1. 大会適用規則

公認野球規則・（公財）全日本軟式野球連盟規程類と取決め事項（競技者必携規則）および大会特別規則を適用する。

2. 打順表の提出と攻守の決定

- [1] 第1試合は、試合開始予定時刻の30分前までに、第2試合以降は、前の試合の4回終了までに、監督または主将が登録選手全員を記載した打順表4通（球場到着後直ぐに大会本部に取りに行く。控え選手も含めて必ず氏名にふりがなを付す）を大会本部に提出する。登録原簿（参加申込書）との照合後に、球審立会いのもと攻守を決定する（監督または主将と球審はユニフォーム着用）。この時チームは試合が出来る状態であること。
- [2] 参加申込書提出後は、選手の変更・追加・背番号の変更等は認められない。
- [3] 試合開始予定時刻になっても、選手が揃っていない場合は、棄権とする。
また、同時刻になって試合ができる状態を取れないチームは、原則として棄権とみなす。
〔注〕前の試合が早めに終了した場合には、次の試合開始予定時刻前でも、試合を開始することもある。
- [4] 試合には、ユニフォームを着用した選手9名での参加も認める（試合には13名以上の参加が望ましい）。但し、参加申込書には、10名以上25名以内の登録選手を記載する必要がある。
- [5] ベンチは、抽選番号の若いチームを1塁側とする。

3. 大会特別規則

- [1] 試合は7回戦とする。但し、試合開始後1時間40分を過ぎたら、試合の回数に関係なく正式試合となって、その回が最終となり、新しいイニングに入らない。
同点で終了した時は、抽選により勝敗を決定する。抽選カードは大会本部で用意する。
また、変則ダブルヘッダーを実施することもある。
- [2] 試合が7回終了時同点の場合
 - ①決勝戦を除き、試合開始後1時間40分を過ぎている時は、抽選により勝敗を決定する。
 - ②決勝戦を除き、試合開始後1時間40分を過ぎていない時は、タイブレーク方式を1イニング実施する。更に同点の時は、抽選により勝敗を決定する。
 - ③決勝戦は、タイブレーク方式を最大2イニングまで実施する事が出来る。
但し、この方式の時は、2時間00分を過ぎて新しいイニングに入らない。
更に同点の時は、抽選により勝敗を決定する。
- [3] タイブレーク方式
継続打順とし、前回の最終打者を1塁走者に、その前の打者を2塁走者として、無死1・2塁の状態で行い、得点の多いチームを勝ちとする。
- [4] 指名打者ルール（公認野球規則5.11）を採用する。
- [5] 得点差によるコールドゲームは、3回以降10点差・5回以降7点差とする。
その他のコールドゲームになる理由は、降雨、日没のほか、球場の使用時間を含み、これを適用するのは、5回終了以降とする（正式試合になる回数5回）。
- [6] 特別継続試合
試合が5回以前で中止になった場合（ノーゲーム）でも、5回を過ぎ正式試合になって同点で中止になった場合（タイゲーム）でも、再試合にしないで特別継続試合を行う。
試合は後日、もとの試合の中断になった箇所から、中断時と同一選手で再開するが、規則に定められた選手の交代は認められる。尚、一度退いた選手は出場できない。
- [7] 本大会では、試合前のシートノックは実施しない。

4. 用具

- [1] 大会使用球は、（公財）全日本軟式野球連盟公認（以下、連盟公認）のM号ボールとし、大会本部で用意する。また、ロジンバッグも大会本部で用意する。
- [2] 金属バット・ハイコンバットは、連盟公認のものを使用すること（JSBBマーク入り）。バットリング・素振り用パイプの使用は禁止なので、グラウンドに持込まないこと。

但し、マスコットバットの持込は差し支えない。

5. 装具

- 〔1〕 スパイクを除いて、ユニフォーム・アンダーシャツ等は、同色、同形、同意匠のものを使用すること。
- 〔2〕 打者・次打者・走者・捕手・ベースコーチは、連盟公認のヘルメットを着用する、SG 基準を満たした顎ガードつきヘルメットの使用は認めるが、改造したものは使用出来ない。捕手は連盟公認マスク（SGシール添付）およびレガーズ・プロテクター・ファウルカップを着用する。投球練習を受ける選手が、上記装具を着用しない時は、立って受ける（ブルペンも含む）。

6. その他の取決め事項

- 〔1〕 ベンチ内に持込めるメガホンは1本までとし、ベンチ内での携帯電話およびパソコン等の使用を禁止するが、電子スコア記録用として1台の使用を認める。
- 〔2〕 塁上の走者およびコーチスボックスやベンチからの、球種やコースなどを打者に知らせるための行為を禁止する。
- 〔3〕 熱中症対策として、守備時間が長い時（約20分）など、給水のため5分程度中断する場合がある。

7. 試合のスピード化に関する事項（試合時間の目標90分）

- 〔1〕 バッテリーは、インターバルを短く、テンポ良く投球すること。
インターバルが長かったり、無用なけん制が、度を過ぎると審判員が判断したら、遅延行為として投手にボークを課することがある。
 - ①サインのやりとりは、簡単に短くする。
 - ②捕手は、投球を受けたら、その場から速やかに投手に返球する。
 - ③投手は、捕手から返球を受けたら、速やかに投手板につき、投球姿勢をとる。
- 〔2〕 打者は、投手が投球姿勢をとったら、速やかに打者席で打撃姿勢をとること。
尚、打者がサインを見る場合は、打者席内で見ることとし、打者席を外すことを禁ずる。
むやみに打者席を外した場合、バッターボックスルールを適用することがある。
次打者は、次打者席にて低い姿勢で待機し、投手であってもこれを実行すること。
- 〔3〕 攻守交代は、駆け足で行い、第3アウトが成立したら、プレーヤーは素早くベンチを離れて、守備位置に向かうこと。
- 〔4〕 各回の先頭打者と、次打者およびベースコーチは、ミーティングに参加しないで、直ちに所定の位置につくこと。
- 〔5〕 内野手間の転送球は、一回り以内とし、打者が打撃姿勢をとる前までに、投手に返球すること。尚、投手への返球は、定位置から行う。
また、打者が打者席にいる時に走者をアウトにした場合は、内野手の転送球を禁止する。
- 〔6〕 走者は、ファウルボールの時は素早く帰塁する。また、内野手は、タイムで集まった場合、打合せを素早く済ませ、守備位置には駆け足で戻り、プレイを遅らせてはならない。

8. その他

- 〔1〕 球場管理者等に対する言動には充分注意し、マナー向上に努めること。
 - ・グラウンドへの入場時間は、球場管理者許可のもと、大会役員が指示をするので、その指示に従って行動すること。球場管理者の指示は良く守ること。
 - ・タバコの吸い殻も含め、ゴミは各自で持帰ること。
 - ・ユニフォーム等の着替えは、更衣室のある施設では更衣室で行うこと。
- 〔2〕 試合当日の問い合わせは、7時00分以降にチーム代表者一人が連絡をとること。
市営球場管理事務所への直接の問い合わせは厳禁とする。
- 〔3〕 グラウンド外では、キャッチボール・バットスイングは絶対にしないこと。
- 〔4〕 ファウルボールは、一塁側のものは一塁側ベンチ、三塁側のものは三塁側ベンチ、本塁後方のものは攻撃側で処理すること。
- 〔5〕 勝利チームは、積極的にグラウンド整備を手伝うこと。
- 〔6〕 駐車場は、駐車台数が少ないので、チームは車に乗合わせで来場すること（4台以内）。

以上